

海外事務所 主な活動報告（令和8年4月）

《ワシントン州事務所》

日本や日系コミュニティの文化等を紹介するシアトル桜祭・日本文化祭（桜祭）が開催され、初開催から50周年という大きな節目に当たる今年は観光に加え、兵庫の酒の試飲等のPRを行った。

桜祭主催者が設置する試飲コーナーで提供する6銘柄の内、兵庫の酒から2銘柄が採用された。当事務所はスタッフを派遣し、主催者とともに試飲コーナーの運営を行った。両銘柄とも来場者からの評判が良く、「試飲した中で最も気に入った。日系スーパー等で販売しているならば、是非購入したい。」などの声が多数寄せられた。

米国は全国の日本酒輸出のうち金額・数量とも約1/4を占め、国別輸出量では第1位となる巨大市場であり、県内の酒造メーカーも重視しているところである。今年度も引き続き兵庫の酒のPRに係る取組を支援してまいりたい。

＜シアトル桜祭・日本文化祭（桜祭）＞

- 日 程 2026（R8）年4月11日（土）～4月12日（日）
- 場 所 シアトル・センター
- 参加者 約27,000人
（うち、試飲コーナー来場者 約500名）



試飲コーナーの様子

《パリ事務所》

兵庫県産酒米を使用した日本酒の認知度向上・需要拡大を図るため、県農産園芸課によるフランスでのプロモーション事業の一環として、フランス最大の日本酒コンクールKura Masterの講座登壇や試飲会における山田錦PRブースの出展への支援を行った。

今年は山田錦生誕90周年という節目の年であり、「フランス料理と山田錦：100年の伝統（山田錦90年、Kura Master10年）」をテーマとした講座が開かれ、Kura Masterの審査委員長による山田錦の紹介に加え、県農業技術センターおよび生産農家による質疑応答が行われた。また、試飲会では、山田錦の説明や日本酒の提供などを実施し、ブースを訪れた関係者等と意見交換を行った。

＜兵庫県産山田錦のプロモーション事業への支援＞

- 日 程 2026（R8）年4月27日（月）
- 場 所 Le Pavillon Ledoyen
（パリ市内レストラン）
- 参加者 審査員（ソムリエ、レストランオーナー等）、招待者等 約150人



ブースの様子

《香港経済交流事務所》

県内企業の進出可能性がある工業団地を視察し、立地条件や整備状況を確認した。

キンバン I 工業団地は、ニンビン省内で造成が完了した最も新しい工業団地であり、兵庫県企業の進出に対する優遇措置について、ひょうご産業活性化センターと協定を締結している。

同工業団地は、ハノイ中心部から南に 40km（車で約 50 分）の位置にあり、総面積 230ha である。工業団地開発会社によれば、全体の 85%がすでに販売済みで、台湾、中国、韓国の企業が多く、土地使用权を購入している。

また、工員確保のため、約 1 万人規模のマンションを建築するレジデンスエリアも整備する計画とのことであった。

キンバン I 工業団地の空きスペースが少なくなってきたことから、ニンビン省は、現在はチャウ・ザン工業団地の造成に着手している。造成が開始されたばかりであるが、来年までに造成を完了させる予定とのことであった。計画規模はキンバン I 工業団地とほぼ同規模の 250ha である。

ニンビン省の工業団地は、ノイバイ国際空港やハイフォン港へのアクセスが良好で、大消費地であるハノイにも近接している。この立地条件は、ベトナム進出を希望する兵庫県企業にとって大きな魅力であり、今後紹介を進めていきたい。

<キンバン I 工業団地、チャウ・ザン工業団地視察>

- 日 程 2026 (R8) 年 4 月 9 日 (木)
- 場 所 キンバン I 工業団地、チャウ・ザン工業団地
- 相手方 工業団地開発担当者



造成が始まったチャウ・ザン工業団地